

日本家族関係・人間関係サポート協会 第3期事業報告

I. 相談事業

1) 2024年度は、HPからの申し込みは2名、うち1名は継続セッションとして、日を変えて2回目のセッションを行った。かぞくのがっこうの受講特典として、2期生同様3期生4期生でも取り組んだ。個別セッションファシリテーターによる人間関係見える化シートでの個別セッションを希望者に体験してもらった。結果、3期生12名、4期生1名が体験された。合計16回のセッションを行った。

今年度は、個別セッションファシリテーターが4名増えたため、9名体制で取り組んだ。16回のセッションのうちアンケートが得られた11件の結果は以下のとおりである。



自由記載では以下のような感想があった。

- ・感情を必要以上に乱されることなく、冷静に現状をみつめることができました。
- ・自分自身と家族との関係性を語ることになったので、気持ちの整理につながりました。
- ・シートを見返して、自分一人では気づけなかった部分に気が付くことができました。【気づいたこと】から自分が自分に起こすアクションと自分が義母に対して起こすアクションが明確になり、今後の具体的な行動まで見えてきました。
- ・対策を人から押し付けられるのではなく、対話をしながら自分の課題を自身で整理し自身で対策を見出していく（あたかも自分でやったかのようにサポートしてもらうのですが）自己決定の過程が心地よいのではないかと思いました。
- ・関係性を冷静に捉える事ができたお陰で、自然に相手の思いや考えを想像する事ができました。それが理解出来たからこそ自分自身の気持ちの整理や今後の相手との関わり方だけでなく、自分自身の人間関係の関わり方の癖、思考の癖を知る事が出来ました。
- ・姉自身も自分にふりかかる現象に、応じたくないと思いつつも、そのつど対応していたことが、悪循環になっていたことに気づくことができたかな。と思います。
- ・相手と自分の関係を言葉で表現した時、まさに関係性が“見える化”して、気持ちが晴れました。

- ・見える化することで、対峙していたと思った関係が実は一方向であったり、そこから家族の孤独感が置き去りになっていたことや信頼関係の構築に必要な対話を避けてしまっていたことに気がつくことができました。
- ・ニュートラルに決めつけなしで話を聞いていただき、人に聞いていただくことのパワフルさを感じました。関係性を俯瞰して見ることで、全く違って見えたので、そこから伝え方が変わりそうです。
- ・自分の家族の関係も利用者さん家族の関係も考え方は変わりなく、俯瞰してみる、本当に大切だと分かりました。
- ・これまで気付かなかった新たな視点がわかり、スッキリしました。

2)

2. 紛争解決事業

本年度準備中につき実施せず

3. 支援者育成事業

1) 研修要項の修正等

毎回、支援者育成担当でミーティングをおこない、研修の目的、受講生の状況、アンケートなどをもとに研修要項を修正している。また、認定インストラクターの役割が拡大するにつれ、報酬規程の見直しを行った。

2) 各コースごとのまとめ

①入門 A・B、初級コース

コース名	開催回数	参加人数
入門 A	4 回	26 名
入門 B	4 回	23名
初級	4 回	21名

9/222, 12/15, 3/16, 9/29 の4回行った。毎回2から3名の申し込みであったが、2/21 のナースペース（訪問看護師向けのオンライン情報誌）オンラインセミナー：家族看護に活用したい「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」（講師：渡辺裕子）以後申し込みが倍増している。その後、こじらせない家族の発刊もあり、支援者の中に家族看護への興味関心の流れができつつあると感じている。

②中級 A コース

コース	参加人数	担当ファシリテーター
10/13	4名	4名
1/19	3名	4名(1名オブザーバー)
4/20	3名	4名(1名オブザーバー)
7/20	対象者なし	なし

中級 A コースは、認定インストラクターがマンツーマンでサポートするため、受講人数によって担当者を調整する必要があることや、日程的にも1日で行うには時間的に4名が限界である。今のところ受け入れ人数を超えることはなかったが、申し込み情報を支援者育成担当で共有しながら対応方法を検討している。

③中級 B コース

1回7名(再受講4名含む)が修了。うち4名が上級コースに進んでいる。

・中級 B コースは、人間関係見える化シートを使った事例の分析力を上げる最終ゲートでもあり、受講生が自身でシートを使った分析に納得でき自信がつくに至るまでの状況の個人差が大きいことから、毎回受講生に合わせて開催内容を修正して研修を進めてきた。

今年度は、一人5事例の分析のうち 1 事例を認定インストラクターが担当して事例検討会の形式で行い、1事例受講生が分析した事例をインストラクターがコンサルテーションを行う形にした。残り3事例は今まで通りの講師とのコンサルテーションを行った。

事例提出とコンサルテーションの日程調整などで研修期間が長くなりがちであり、年度に1回開催のみであったが、次年度は認定インストラクターの介入方法も再検討し、研修期間の短縮をして2回の開催を目指したい。

④上級 A コース・認定インストラクター3期生コース

5月から4名の受講生で、上級 B を含む認定インストラクターコースを開催中。

3) 認定インストラクター講師派遣事業

法人 HP への講師依頼を認定インストラクターに仲介し、依頼者と認定インストラクターとで直接やり取りして講義を行い、報酬も依頼者と認定インストラクター間でやり取りを行う。認定インストラクターは、活動報告を法人に提出する。

- ① 練馬区訪問看護ステーション協議会「渡辺式アセスメント支援モデル学習会」14名参加
- ② 福岡市 A 訪問看護ステーション 「みんながエンパワメントされる家族支援-渡辺式家族アセスメント/支援モデル」4~5 名参加

4. 交流事業

1) 抄読会(毎週火曜日 20:30~22:00)

本と参加者

2024, 5, 7	家族生活教育 人の一生と家族	キャロル・A・ダーリン ドーン・キャンディ レイン・パウエル	5/7 4名 5/21 6名 6/4 5名 6/18 3名 7/9 3名 7/23 5名 8/20 4名 9/3	5/14 5名 5/28 5名 6/11 5名 6/26 7/16 7/30 5名 8/27 15回 延べ 50+ α
2024, 9, 24	フランスの子どもの育ち と家族	安發 明子	9/24 6名 10/15 6名 10/29 5名	10/8 6名 10/22 5名 11/5 4名

			11/12 5名 11/19 2名 11/26 4名 12/3 4名 12/10 3名 11回 述べ 50名
2025、1、7	「わかりあえない」を超える	マーシャル・B・ローゼンバーグ	1/7 7名 1/14 8名 1/21 11名 1/28 7名 2/4 6名 2/25 6名 3/4 6名 3/11 5名 3/18 3名 3/25 6名 10回 延べ 65名
2025、4、1	こじらせない家族	渡辺 裕子	4/1 10名 4/8 16名 2回 延べ 26名
2025、5、6	聞く技術聞いてもらう技術	東畠 開人	5/6 7名 5/13 7名 5/20 6名 5/27 6名 6/3 8名 6/10 6名 6/17 6名 6/24 4名 8回 延べ 50名

今後に向けて、

平日の夜であり参加者が限られてくる半面、定期開催のため、予定は立てやすい。現在継続して参加しているメンバーの参加意欲として、「1日の終わりに安心できる場所で自分のことを話し聞いてもらえる場所がある」とことが1番に挙げられている。今までの良さを継続しつつ、「読んで感想を述べあう」「気になった場所を分析的にみてみる」「担当を決めて章ごとにまとめを発表する」など、時には違うやり方も試すことで参加メンバーを広げていく。

2)社会課題を考える対話会(外部講師によるレクチャーと対話会)家族看護お話会など

日程	テーマ	講師	参加者等 (アーカイブ視聴抜き)
11/15 18-20	フランスの子どもの育ちと家族	安發 明子氏	16名
11/17 20:30-22:00	臨時*ハッピートーク出前授業対話会	池崎 晴美氏	12名
12/22	トランスジェンダーと家族	株式会社えて 代表取締役社長 安池 中也氏	14名
1/18 9:30-10:30	訪問看護功労者感謝状受賞ファミリレお祝い対話会	北須磨訪問看護リハビリセンター 所長 藤田 愛氏	11名
1/25 9-11	ケアラー支援	立命館大学大学院 産業社会学教授 斎藤 真緒氏	13名

1/26 20:00-22:00	映画:どうすればよかったですか 感想対話会	渡辺 裕子	13名
7/3 20:30-22:30	ポリヴェーガル理論	吉里 恒昭氏	26名
8/2 9-11	パーツ心理学のお話	吉里 恒昭氏	16名
8/28 20:30-22:30	ダイアログのお話	吉里 恒昭氏	予定

3)事例検討会(12回)

テーマ:視点が変わり可能性が広がる —チャレンジ事例検討会 12

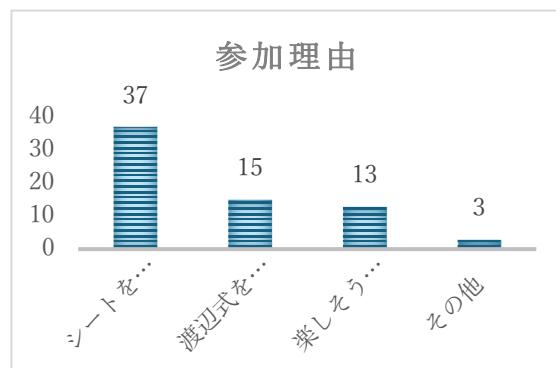
内 容:90 分間でシートを使った分析ができ、参加者の視点が変化し渡辺式家族アセスメント/支援モデルの有用性が実感できることを目指し、毎月定期的にサロンで事例検討会を行う。事例は、法人内蓄積事例をエッセンスのみ抜き出し加工して使用する。

「渡辺式事例検討会は分析に時間がかかるという」意見から出た 90 分ができる事例検討へのチャレンジであつたが、時間についてはほぼクリアできていた。また、参加者の感想、アンケート結果から 90 分の時間内でもシートを使った事例検討の効果を実感していただくことができるという実感を掴むこともできた。さらに、今回 1 年間を通して毎月定期的にサロンの事例検討会というイベントを、外部にも公開(当初 3 回のみ公開予定が 3 回目以降はすべて外部に公開の形となった)して行ったことで、渡辺式家族アセスメント/支援モデルに初めて触れる方にも、気軽に参加していただける場の提供ができたと思われる。

日程調整の面でも、参加者から 1 年間の予定が決まっていることで参加の予定が立ちやすい、という意見も多くみうけられた。しかし、1 月と 2 月のテーマ入れ替えの際に「精神科の事例に参加を予定していたのに」というご意見が 1 件あった。予定変更の場合は早めに判断し、十分余裕をもってお知らせするなど 2025 年の事例検討会開催の参考とし、4 月締めで 1 年間取り組み、今年度も継続している。

参加者の資格等

看護師・助産師(病院)	18
看護師(訪問看護)	34
看護師	3
当事者家族	3
離職中	3
障害者施設支援者	1
市役所	1
社会福祉士	1
大学院	1
無回答	2



アンケート結果から、初めて参加するが、入りやすい雰囲気だった。時間的にも午前の早い時間で終了し、申し込みやすい。分析自体は初めてなので不安はあるが、何度か体験して取り組んでみたいなどの意見があった。(アンケート集計は別紙資料①参照)

テーマと参加状況

日程	概要（変更もあります）	参加人数	ファシリ
4/13 土 サロン合同	ミスが多い新人に対する指導者と管理者の葛藤	13名	株崎
5/18 土	他者の支援を受け入れない患者への支援	12名	茶谷
6/15 土	治療を拒否したまま親子で過ごす療養者への支援	13名	富岡
7/13 土 サロン合同	上司の意向を無視し退職をおわせつつ働く中間管理職	8名	新泉
8/17 土	難病の妻に対し、自己流のケアを貫こうとする夫への支援	13名	新泉
9/21 土	治療方針をめぐる他職種間の葛藤	10名	堤
10/12 土 サロン合同	障害、高齢、認知症、など家族がそれぞれ課題を抱えながら地域で過ごすには？	10名	丸岡
11/16 土	産まれたわが子を受け入れられない母への支援	14名	新泉
12/7 土	不十分な療養環境のなか自分なりの生活を行く抜く独居高齢者の支援	8名	富岡
1/11 土 サロン合同	母子関係の葛藤から同じ状況を繰り返す患者への支援	9名	富岡
2/15 土	家族のセクハラはどこまで容認できるか？ケアを必要としている人に支援を届けるには？	7名	渡辺美
3/15 土	退院をめぐり本人家族の意向と病院在宅それぞれの支援者との調整	19名	新泉

5) アウトプットの会（3回）

- ・10/26「浜松市市民講座の取り組みについて」報告者：三輪さん 4名参加
- ・2/23「上海での取り組み」報告者：寺師さん
- ・4/27「神奈川市民講座の取り組み」報告者：佐藤、細井、中村、美濃部さん 6名参加

6) その他交流事業

- ・クリスマス会 1回 12/22 音楽と対話など 参加 8名+子ども 3名
- ・新入会員向けの「ファミリレの歩き方」1回
- 10/16 新規入会者に対して、サロンのイベント情報の取り方や参加の仕方などを伝え、交流を図った。4名参加
- ・出前授業報告会 1回 9/29 参加 14名

7) 法人会計外事業

- ・ 山中湖合宿
- 11/2-3 山中湖ころころにて 事例検討会、懇親会など 14名参加
- ・ファミリレの日
- 5/31 医療法人悠翔会にて「こじらせない家族」講演会、事前申し込み 30名 当日参加者 27名

5. 教育・啓蒙普及事業

1) かぞくのがっこうベーシックコース 4期生 25名 アンケート・感想は別紙資料②参照

科目名		日程	テーマ
基礎科目Ⅰ 人間関係リテラシーについて学ぶ	第1回	10/9 10/12	人間関係リテラシーとは何か
	第2回	10/23 10/26	基本的人権としてのアサーション権
	第3回	11/9 11/13	バウンダリーと自他尊重のためのコミュニケーション
	第4回	11/27 11/30	人間関係の成り立ち：人間関係見える化シート®
基礎科目Ⅱ かぞくの法則を知る	第1回	12/11 12/14	社会の変化とかぞくの変容
	第2回	12/25 12/28	システムとしてのかぞく かぞくのコミュニケーション
	第3回	1/8 1/11	かぞくの病理/世代間の境界・連鎖/勢力構造
	第4回	1/22 1/25	ジェンダーと家族
基礎科目Ⅲ 家族の発達を知る	第1回	2/8 2/12	結婚とは何か？ パートナーシップの育て方
	第2回	2/22 2/26	親になるということ。 子育ての原則
	第3回	3/8 3/12	中年期以降の夫婦関係 子供の巣立ちと夫婦関係
	第4回	3/22 3/26修了式	人生100年時代、かぞくとどう付き合うか？

2) かぞくのがっこう 4期生 10名(実施中)

3) かぞくのがっこうファシリテーターコース 3期生

受講人数 24名(うち再受講9名)

① 日程及び内容

今期のファシリテーターコースは、特に①市民講座でバウンダリーを講義ができる。②出前授業でバウンダリーの授業ができる。③出前授業で感情との付き合い方の授業ができる人材育成を目指して、以下の表の内容で行つた。受講生の感想、アンケート集計などは今後行う予定。

1回目	4/23(水)、 4/26(土)	講師力を磨く(総論) 渡辺 裕子
2回目	5/10(土)、 5/14(水)	市民講座「バウンダリー」講演のポイント
3回目	5/24(土)、 5/28(水)	出前授業小5向け「バウンダリー」指導案&指導のポイント 佐藤典子
4回目	6/11(水)、6/ 7(土)	出前授業小6向け「感情との付き合い方」指導案&指導のポイント 茶谷妙子
5回目	6/25(水)、 6/28(土)	話し方・伝え方(外部講師)実技あり 池崎 晴美氏
6回目	7/9(水)、 7/12(土)	実技:市民講座
7回目	7/23(水)、 7/26(土)	実技:出前授業小5向け
8回目	8/9(水)、 8/13(土)	実技:出前授業小6向け

4) かぞくのがっこう Labo

受講希望 18名で開始。修了生は希望すれば参加が可能。アーカイブはサロン内に公開している。

かぞくのがっこう卒業生が、自主的継続的に学ぶ場として月2回のペースで開催した。

毎回指定図書を読んだうえで参加し、対話によって内容を深めている。

12/2から開始。7月まで 14回行い、指定図書は家族社会学の分野から①を中心に読み、現在家族心理学の分野で①を中心に読んでいる。

指定図書:

【家族社会学】

①よくわかる現代家族 第2版 神原文子他編著 ミネルヴァ書房 2016

②よくわかる家族社会学 西野理子 編著 ミネルヴァ書房 2019

③問い合わせはじめる家族社会学 改訂版 岩間暁子他編著 有斐閣ストウディア 2022

【家族心理学】

①家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助 第2版 中釜洋子他編著 有斐閣ブックス 2019

②はじめての家族療法 浅井伸彦編著 北大路書房 2021

③家族理解のためのジェノグラム・ワークブック イスラエル・ガリンド著

柴田健監訳 遠見書房

④家族連鎖のセラピー 百武正嗣 春秋社 2012

【家族の歴史】

- ①「家庭」の誕生 本多真隆 ちくま新書 2023
- ② 21世紀家族へ 第4版 落合恵美子 ゆうひかく選書 2019

【ジェンダー】

- ①はじめてのジェンダー論 加藤秀一 有斐閣ストウディア 2017
- ① 女性学・男性学 ジェンダー論入門 第3版 伊藤公雄他著 有斐閣アルマ 2019

5) 出前授業事業

2024年9月18日、神戸市立本庄小学校で5年生・6年生の児童240名に出前授業を実施
渡辺/茶谷/細井/生本/藤田 担当
感想等はHP参照

6) ひろ子先生と家族を考えるラジオ

テレビドラマ『THIS IS US/ディス・イズ・アス』を取り上げ、そこに描かれる家族模様を素材に家族について語るラジオ。6月末までにユーチューブで34話リリース
担当 嶋尾/松村/渡辺

6. 調査研究事業

- 1) 研究 MTG 研究発表を希望する会員向けに、大学教員によるサポート。抄録提出まで毎月1回。
年10回の指導を受けた。

2) 学会発表活動

- ・日本在宅医療連合学会 6/14-15 長崎 一般公募企画シンポジウム1企画
「かぞくのがっこう発-バウンダリーから考える当事者・家族と支援者のこれからのパートナーシップ」
座長:堤、新泉、登壇者:富岡、佐藤典、松村、株崎
- ・日本家族看護学会 9/14-15 鎌倉 交流集会企画5企画
研究発表・演題発表予定

7. 広報事業

目的・各領域向けに活動を進めている。

1) かぞくのがっこうの営業

・看護領域向け

看護領域向けの仕組み販売フローを仕組み化。広告・FAX→LP→問い合わせ。
学会(日本在宅医療連合学会)における広告掲載・チラシ配布を実施、事業所向けの郵送 DM(500件)・
FAXDMを実施(2100件)。6件の新規の方のお申し込み。
仕組み化を図ったことで、以降の家族看護学会や、開催ごとの FAXDM 送付を低成本で実施できるようになった。

・一般向け

書籍出版→出版記念セミナー（計4回）

2)地域への浸透

協業団体のリスコ（東京湾岸エリア）と、共同セミナーを開催（計2回）

3)公教育への組み込み

政策化に向けて、家族に関心のある国会議員2名に面談実施。